

農家の気象への関心について*

(その2 宮城県北部の気象俚諺について)

森 俊 彦**

要旨：農家の気象への関心の程度を見るための一つの方法として、宮城県北部の気象俚諺約 250 を集めて、項目別に分類した。この中、根拠があり、その理由を知っていると都合のよいもの約 50 について簡単に紹介を試みた。又その 50 の俚諺について 200 人にアンケートした結果を示したがそれによれば風や雲によって天気を判断する俚諺はよく知られていることがわかった。

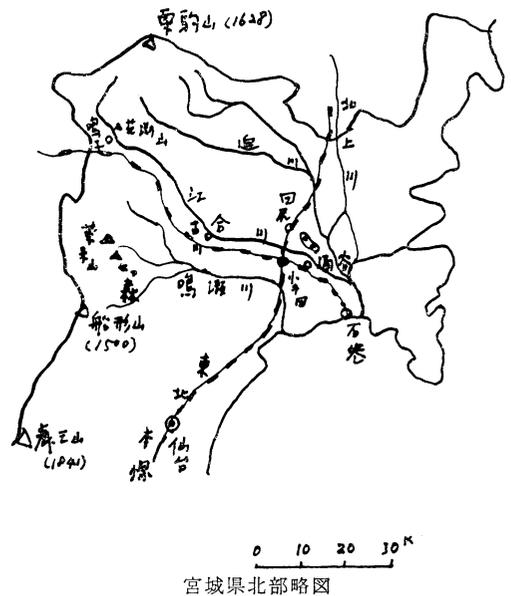
1. 宮城県北部（以下仙北という）の天気俚諺の種類と数

仙北というが、俚諺を集めた町村は、鳴子、岩出山、中新田、古川、小牛田、湧谷、松山、河南、河北、石巻、田尻、瀬峯、築館であり、栗原郡、登米郡、本吉郡、牡鹿郡の大部分は含まれていない。

調査方法は本校に通学している生徒に、上記の町村毎に俚諺を集めさせ、それ以外に直接自分で面接などして集めたもので、昭和25年から集め始めたものである。俚諺のことであるから、あいまいな点もあり、中には同じ現象で反対の結果をのべているものもあるが、それについては多くの人の意見を正しいとしてそれをとった。今一応種類別にすると

1) 他の地方でも言われていてよく紹介されているも

- (1) 夕焼は晴
- (2) 夕虹は晴
- (3) 植物の葉に水玉が来るとその日は晴
- (4) 朝霧は天気の良いしるし
- (5) 露がおりと天気はよい
- (6) 飯粒が茶わんにつくと晴
- (7) 朝もやたつと天気はよい
- (8) 霜が降ると天気良い
- (9) 冬の朝冷え天気良い
- (10) 朝の雪、晴となる
- (11) 雨のとき、石が乾くと晴れる
- (12) 星がハッキリ見えると天気よい
- (13) 朝虹は雨



- (14) 朝焼は雨となる
- (15) 日暈、月暈雨となる
- (16) 入道雲が出ると雨
- (17) 夕方、雲が出ると雨
- (18) 遠くの物音がハッキリきこえると雨になる
- (19) 便所の臭がはげしくなると雨になる
- (20) さばぐもや巻雲が出ると天気わるくなる
- (21) 夜晴れは又降る（後出）
- (22) 夜中に雨が晴れると7日間天気が悪い（後出）
- (23) 朝てつかり
- (24) 海鳴りがハッキリきこえると天気悪い
- (25) 大霧があると3日間雨となる
- (25) 秋に暑くなると雨になる
- (27) 地藏様がしけると雨となる

* On the Farmer's Interest in Weather (Part 2 About the Proverbs concerning the Weather in the Northern Part of Miyagi Prefecture)

** Toshihiko Mori. 宮城県小牛田農林高等学校
—1966年11月15日受理—

- (28) 西空くもると雨
- (29) ふんどしがしめると雨になる
- (30) 冬星がハッキリ見え風なければ明日霜、梅雨どき霧となる
- (31) 夕方、家の軒下にもやがたなびくと明日は霜となる
- (32) 雷の多い年は暑い
- (33) 大風の時、さといもの葉が破れないときは被害が少い
- (34) 地震の時には竹やぶにげよ
- (35) 井戸水がひくと大雨又は津波になる
- (36) かつをぶしがけずりやすいと雨

これ等の根拠については各種の本に解説があるのでここにはふれない。ただ「日最月暈雨となる」ということわざの適中率を調べて見ると、暈が出て雨になる割合は、仙台と石巻とでかなりちがっている様である。

2) 日和定め

これは特定の日の天気から、将来の天気を判断するものである。

- (1) 雷が早くからなるとその年は雨が少い
- (2) 雷が早くなる年は作がよい
- (3) 寒中の風は土用に晴れる
- (4) 冬の雪が多く降ると次の年は雨が多い
- (5) 三月雷は日でりになる
- (6) 正月の14日の夕方に雲が立つとその年雨が多い
- (7) 5月節句にマンガ(馬躰、田を耕すもの)を下すと日でり
- (8) 盆の14日のだんごの干あがりよいと秋あげよい
- (9) 甲子(キノエネ)に雨降れば長雨がつづく
- (10) 旧の28日に雨が降ると次の月、雨が多い
- (11) 月の1日に雨が降ると3日雨になる
- (12) 曾我の雨(旧の5月27、28日は雨になる)
- (13) 旧の5月節句は雨
- (14) 旧の11月23日の風雪

3) 生体気象

- (1) 神経痛がやむと天気が悪くなる
- (2) 頭が重苦しくなると天気が悪くなる
- (3) ヒビ、アカギレがいたむと天気がかかる
- (4) ヌキヤケがかいゆいと雪になる
- (5) 打身がいたむと雨になる
- (6) 子供がさわぐと雨になる

4) 俗信

- (1) 雨蛙を殺すと雨が降る

- (2) いもりを殺すと雨が降る
- (3) 滝に猫を投げると雷がおちない
- (4) 線香をつけると雷がおちない
- (5) 蚊帳をつると雷がおちない
- (6) 1日に蜂に3回さされると翌日雨になる
- (7) 節分の豆を食うと雷よけになる
- (8) 小豆飯に汁をかけると結婚の時、雨が降る
- (9) 下駄の裏が出ると雨が降る
- (10) 貧乏人が灰やくと風が立つ
- (11) 口笛を吹くと風が吹く
- (12) 飯粒が顔についていると晴
- (13) 大事があると三日以内に雨
- (14) てるてる坊主を下げると雨がやむ
- (15) リンがもえるとしけがつづく
- (16) 火のもえ方が悪いと雨
- (17) 茶釜の湯があつく沸くと天気がよく、ぬるく沸くと天気が悪い
- (18) のむ湯があついと天気がよく
- (19) 朝食の湯がぬるいと天気がくづれる
- (20) 朝の湯がにがいと天気が悪い
- (21) 朝、釜が鳴るとその日晴れる
- (22) すずが落ちると大風
- (23) 釜の下のすずが火がつくと風になる
- (24) 釜の日が、バチバチなると風が吹く
- (25) 足駄の歯が、カタカタ鳴ると天気がよく

この中、(1)から(14)までは民俗学の方から調べて見たら面白いであろう。現に、冬、降雪が少なくてスキー大会が出来ず、町の関係者が猫を湖に投げたという新聞記事が最近あった。(15)から後の方は、何かしら気象と関係がありそうに思われるが、検証はなかなか困難のように思われる。

5) 動植物に関するもの

- (1) 雨蛙がなくと雨
- (2) 蛙が家の中に入ると長雨になる(ほたるも同じ)
- (3) みみずが土を出てくると長雨になる
- (4) 蛇が腹を見せると雨
- (5) いもりが腹出しておよぐと天気がくづれる
- (6) 猫が草を食うと天気が悪くなる
- (7) 猫が顔洗うと雨になる
- (8) 猫が耳をこして顔を洗うと天気よく、耳をこさないで顔を洗うと大風
- (9) 猫の目の孔彩が開いていると天気が悪い

- (10) 猫があばれると天気が悪くなる (大風)
- (11) 夕方、猫がじゃらけると天気よし (明日風)
- (12) 猫が鼻をむけてねると雨
- (13) くもが巣を縦に作ると雨
- (14) くもが巣を横に張ると晴 (くもが稲の稲先に巣をはると晴)
- (15) くもが軒下に巣を作ると天気が悪い
- (16) くもが出てくると天気が悪くなる
- (17) くもの巣が多くかかっていると天気が悪くなる
- (18) くもが糸を張ると強風
- (19) 朝、くもの巣に露があるとその日は晴
- (20) 鳥が高所に巣を作ると雨が多い
- (21) つばめが低くとぶと雨
- (22) にわとりが早く小屋に入ると明日晴
- (23) にわとりがおそく小屋に入ると次の日は雨
- (24) ひるおんどりがなくなると天気が悪くなる
- (25) 尾長どりがなくなると雨が降る
- (26) 冬に雀が盛んにさえずると雪が降る
- (27) 雀が水に入って体を洗うと雨
- (28) トビが高く飛ぶと大風になる
- (29) トビがなくと風が吹く (明日雨)
- (30) トビがまわりながら上ると雨になり、まわりながら下ると晴
- (31) 山鳩がなくと晴 (雨が降っていても山鳩がなくと晴れる)
- (32) 山鳩がとぶと雨
- (33) 山鳥が里にとんでくると雨になる
- (34) かわせみがとんでくると雨が降る
- (35) カラスが水浴すると近い中に雨
- (36) 夕方カラスが高くとぶと明日は晴
- (37) ひばりが高く上ると晴
- (38) カンカン鳥が野原に巣を作るとかんばつ、屋内や雨のあたらない所に作ると大雨
- (39) かもめが陸にとんでくると海が荒れる
- (40) 蜂が高い所に巣を作ると大雨
- (41) 蚊が上下にとぶと天気が悪い
- (42) 赤トンボが多くとぶと晴天つづく
- (43) アリが穴をふさぐと雨
- (44) 地震の前に蛙がなきやむ
- (45) きじがなくと地震になる
- (46) 魚がよくつれると次の日、雨
- (47) 魚が水上にとぶのは雨
- (48) もくれんが下を向いて咲くと日であり
- (49) まんさくの花が上を向いて咲くと旱天、下を向いて咲くと長雨
- (50) コブシの花が上向いて咲くと天気がよく、下向いて咲くと天気悪く、横向いて咲くと風
- (51) 雨降り朝顔咲くと雨
- (52) 雨ふり花が咲くと雨
- (53) 竹の子の伸びがよいと天気は長持ちする
- (54) とうもろこしの根が高く張っていると嵐がくる

6) 仙北の天気の特徴を示すもの

ここにあげるものは、必ずしも仙北だけに言われているものだけでなく、他の地方でも言われているものもある。しかし、これ等についてその理由を知っておくと、日常生活に便利な事が多い。それで、ここにあげるものを利用するとまではゆかなくとも、一般の人が、知っているかどうか、調べて見た。その方法は、俚諺を書きならべ、知っているものに○印をしてもらった。調査人員は、本校生徒の父兄 200 人で、年齢は 40 才以上の農家の人々である。調査した結果は、ここにのべる俚諺の後の方に数字で示してある。

① 風と天気

(1) 「一時八時十二時 40」この 40 というのは、前にも書いた様に調査した人の 40 % が、この俚諺を知っているという事である。この俚諺の意味は、風の吹く時間が、2 時間、16 時間、24 時間という事である。小牛田から 10 km ばかり南の鹿島台の、東北地建の日記記録を見ると、昭和 39 年については、平均風速 6 m/s 以上のものについて、吹き始めから吹き終わりまでの時間を調査すると、2 時間 (19 回)、4 時間 (20 回)、8 時間 (30 回)、16 時間 (9 回)、24 時間 (12 回) となっていて、この部分はピークを示している (第 1 表参照)。この中で 10 m/s 以上の風速を示したものを見て、2 時間 (4 回)、8 時間 (6 回)、16 時間 (4 回)、24 時間 (9 回) となっている。それでこの俚諺とくらべると、16、24 時間は夫々八時、十二時であるから合致するし、2 時間も一時であるからよいが、4 時間や 8 時間のピークはどうなのであろうか。このほかに 5 時間、6 時間の風も多い。それで、これに相当する時間がこの諺にないのは、これは語呂の関係であろうか。ただし 9 月～11 月の期間では 2 時間が 11 回で最高を示している。4 時間、8 時間のものは 4～7 月にも半分以上をしめ、9～11 月は夫々 8 回、5 回となっている。それでこの俚諺には「秋は一時」という様な事を考えるべきなのかもしれない。

又風による被害は、低気圧の後の高気圧のはり出しの

第1表 風の継続時間の回数 (昭和39年)

継続時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	以上
回数	3	5	19	14	20	19	17	19	30	10	13	7	6	4	8	6	9	2	3	3	1	3	0	2	12	2

第2表 風の吹き出しと吹き終りの時刻の回数 (昭和39年)

時刻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	
回数	吹き出し	12	5	11	2	10	8	15	28	30	31	28	21	14	8	2	4	4	6	4	7	5	5	8	22
	吹き終り	7	3	4	7	4	4	4	3	3	4	3	6	4	10	11	27	47	43	20	11	9	11	14	26

第3表 雨の止んだ時刻と次の雨の降るまでの時間 (昭和38~40年)

雨の止んだ時刻	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22
次の雨までの時間	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24
0~10	4	7	4	2	1	0	0	0	0	1	0	2
10~20	2	0	5	2	2	0	0	2	1	2	2	2
20~25	1	2	0	0	3	4	5	3	3	3	2	2
25~60	1	1	3	3	7	6	1	3	5	1	4	2
60~100	3	2	1	1	3	6	0	2	3	1	0	2
100~150	0	3	3	0	3	1	0	2	1	0	2	2
150~200	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0
200~250	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1	1
250~300	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
300以上	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

場合に多い16時間、冬の季節風の24時間に多いから、或いは風害をいましめる為の「八時十二時」が本分で、その他のものではあまり被害がないので、4~8時間程度のはぬいたのかも知れない。しかしいずれにしても長い間の記録を参照しなければなるまい。

(2)「風は吹き出しから吹き出しまで」前の(1)にも関係するが、24時間吹くのが冬の季節風で、しかもこれは殆んど全部 10m/s 以上の強風である。気温低下と風害を警戒し、この風は吹き出した時間まで(24時間)吹くぞとうれている人々の姿が目に見えよう。

(3)「座頭と風は昼立ち」

(4)「夫婦げんかと(北)風は夕方はやむ」これは、風の吹き出す時刻は昼が多く、風は夕方にやむの多いという事を、俚諺であるから座頭(当地方でめくら)と夫婦げんかを一しょにしたものである。昭和39年の前出

の鹿島台の自記記録によれば第2表のようになる。

それを見ると、吹き出しが8時~12時までの4時間の間にあるものが一年中の40.3% (回数で117回) 吹き終りが、16時~20時までの間にあるものが全体の47.3% (回数で137回) を占めている。そして夜中から吹き出して夜中にやむものが夫々30回、40回もある事は前の(2)の事も思いくらべられる。さてこの様な吹き出しは北西の風であるが、低気圧がくると南風が吹く。しかしこの風は北西の風に比べれば長つづきはしない。それで

(5)「南風は長く吹かない 56」

(6)「南風は一日と続かない 41」という。又当地方では南風を下風しもかぜといって、低気圧がきて、南の風が吹く事を次の様に言う。

(7)「下風しもかぜ天気悪し 74」低気圧がすぎると、北西の

風になる。それで

(8)「雨のあとは風になる」

(9)「西風になると晴れる 92」

(10)「西風、天気よし 92」という。ただし夏には、小笠原高気圧の為に当地方には天気がよくても穏やかな南風が吹くから

(11)「春の南風は雨 42」とことわっているのもある。又低気圧が来た時の風は正確に南でなくて、東-南の間の風が吹く。それで

(12)「東風天気が悪い 73」

(13)「南東の風で雨 49」という。冬型の気圧配置になると、この地方に北西の風が吹く。これは裏日本に雨や雪を降らせ、奥羽山脈を越えて古川-小牛田辺までくるので

(14)「冬、北西の風で雨か雪 51」という。この地方の稲作で注意すべき事は、夏に北部海域に寒冷高気圧が存在し、そこから風が吹き出し、当地方で北西風となる事である。この風は冷たくて暖い空気に入れて雨となる。それで

(15)「夏の西風、雨となる 48」という。又北西風の事を当地方では「ならい」とよび、晴の北西風と区別して

(16)「夏ならい雨よぶ、秋ならいよし、稲かわく 55」といい、嫌っている。梅雨が長びくのはオホーツク海高気圧が停滞している時であるが、その時、仙北の海岸地方に東よりの風が吹く事がある。それで海岸の方で次の様にいう。

(17)「東風のふり出しは長雨、南風の雨はやがて晴(南風の雨は低気圧の為にであるからすぐ晴れる)」

② 雲と天気

前には風の事についてのべたが、風の吹き方によって雲もその方向に移動する。それで

(18)「雲が東から西に動くと雨 80」

(19)「雲が南から北に動くと雨 65」という。発達した低気圧がくると風速が大となるので雲の移動も自然早くなるから

(20)「雲ゆきが早いと雨 59」という。又、南東から北西に移動する雲を「入雲」北西から南東に移動する雲を「出雲」といい、次の俚諺がよく人に言われている。

(21)「入雲、雨となる」

(22)「出雲、晴となる」山を風が越える時に、山頂の近くに雲が出きる事がある。それで、栗駒山や奥羽山脈の山々について

(23)「山に帽子雲かかれば大風 44」

(24)「笠雲かかれば雨や雪 57」という。又雨を降らせる下層雲は高度が低いので、この辺の低い山に雲がかかるのは雨の前兆である。

(25)「籠岳山に雲かかれば雨 36」

(26)「かごぼう山に雲かかれば雨 38」にある山は、いずれも海拔 200m のい低山で、これ等の山に雲がかかると数時間以内には雨となる。

もっと高い山では(800~1000m)

(27)「薬来山に雲かかれば雨 31」

(28)「花淵山に霧かかれば雨 35」というのがある。高さ 500m 位の山では

(29)「上品山に雲かかれば雨」というのがあり、本年 7月~9月の降雨回数は19回、この中、18回が雲がかり、又雲が中腹にかかるか、山頂にかかるか、又その雲の厚さによって降雨量が異なる様であるが今後の研究にまちたい。

3 雷

夏の熱雷は上層の気流に流され西から東に進行する。それで

(30)「七つ森に発生した雷雨は田尻に来る 20」となる。夏に本土が小笠原高気圧におおわれると山岳地方に熱雷が発生する。それで

(31)「栗駒に雷がなると晴 19」という。これは天気が夏型に定まってきた事である。天気が夏型にならないと雷の発達も充分でない。それで

(32)「ひとつ雷様は天候異変 25」そして、勢の弱くなった雷を「雷がこづけた」といい、次の様にいう。

(33)「こづけた雷様は天候異変 38」梅雨前線の北上で梅雨があげ、その時期に雷が鳴る事はよく知られているが当地方でも

(34)「雷が鳴ると梅雨があける 60」

(35)「雷、北にゆくくと雨なし 45」とある。雷の進行方向は西から東に移動するのが正則であるがこれに反する場合には天候が異常であると考えべきである。それで

(36)「雷が東に出れば天気 39」

(37)「雷山手にゆけば(宮城県では西)天気ぐずつく 37」というのはこの事を示している。

④ 雨、雪

(38)「夏さむいと雨、冬あたたかいと雨」これは今更説明の要もあるまい。これもよく人々がいう事である。次にこれは他の地方でもよく言う事であるが、遠くの山

の見え方で

(39)「栗駒山が近く見えると雨が降る 65」山としては栗駒以外に船形山や薬来山もあげられている。この地方からは栗駒山は見えない日が多いが、昭和39~40年の調査によると、栗駒山が浮き上って近く見えた日数は40日、次の日雨が26日、曇り12日、晴れが2日という結果である。そうするとこの俚諺の適中率は65%という事となる。栗駒の近く見えた日の天気図を見ると、1000km前方に低気圧が存在する場合である。ここで注意すべき事は、山の見え方であって、高気圧に蔽われた日には山も見えないがその場合にはかすんで遠く見えるのであるが、雨の近い場合は、近く見えるというよりは浮き上って近く見えるといった方がよい。それで晴れた日には山が見えるから次の様な俚諺もあり、注意を要する。

(40)「朝、栗駒が見えるとその日、晴」次には、これもよく他の地方で言うのであるが、「遠くの物音」と雨の関係である。

(41)「遠くの物音近く聞えると雨近い 60」この物音であるが、河音、鐘、汽車などいろいろであり、又その距離もいろいろである。たとえば鉄道から14kmはなれた鬼首の盆地でも「汽車の音が聞えれば雨」というのがあり、小牛田駅から4kmある下小牛田にも、又その他鉄道の沿線いたるところできかれる。その中汽車の音と天気の間隔を6kmはなれた場所で調査して見ると次の様になる。まず調査回数170回の中で、音が全然きこえないか又は殆んどきこえないのが38%きこえるのが53%、ハッキリ聞えるのが9%であって、従って音がハッキリ聞えるというのは珍しい事で、人の注意を引く事である。この調査中、音がハッキリ聞えて24時間以内に雨というのが13回で降雨率は76.5%、音がやや高く聞えて24時間以内の雨は23日、降雨率は28%、音が低くて雨の割合は4回で17%である。そして音の高く聞える場合は(風雨によって聞えない場合もあるが)低気圧が1000km付近まで接近している場合である。

(42)「霜流し 60」古川一小牛田辺では、初霜は10月24日であるが、初霜の後で必ず低気圧がきて、南風が吹いて一寸暖かくて雨が降る。この雨の事を「霜流し」といって、霜を見ると、この次に「霜流し」があるという。又旧暦5月の大雨を石巻地方で「しょうぶながし」といっている。

(43)「寒九の雨」寒に入ると九日目に雨がふるとその年は作が良いというのである。昭和23~27年頃は暖冬で冬にもよく雨が降って、稲作も水害にやられた以外はよ

かった。その折、老人達がよくこの事を言っていた。

(44)「二百十日、二百二十日」近年になって台風は、二百十日に来襲するより、それ以外の日にくると言われている。二百十日、二十日のいわれについても言われているが、仙台藩の領土であるこの地方では当時の暴風雨は何日に来襲したであろうか。

1867年から1615年までの245年間の9月中の暴風雨の発生した日は次の様で、昔も二百十日、二十日は多くはなかった様で、従って昔も台風に来襲する日をこう考えていたとは、少くともこの地方では言えないであろう。

9月の暴風雨発生日(1867年~1615年・宮城県)

	1	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23	25	27	29
日	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}	}
	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30
発生回数	4	2	3	2	2	2	4	4	2	2	2	5	3	5	4

(43)「夜晴れは又降る(夜上り天気雨近い)」

(44)「夜中に雨が晴れると7日間天気悪い」

(45)「八つ晴にかさぬぐな」

(46)「四つ晴にかさはなすな」

これは他の地方でも言われている。八つは午前2~3時、四つは午後10~11時である。従ってこの俚諺の意味は、午後10~午前3時まで晴れた天気は、又様機が悪くなるという声である。昭和38~40年、降雨が止んだ時間と、その後の降雨があるまでの時間を調査して見ると第3表(後出)の様になり、夜に晴れた天気は、他の場合に比べて短時間の中に崩れる割合が多くなっており、しかも午前の0時から4時に晴れた方がその割合が大きくなっている。しかし、(44)の夜晴れは7日間天気悪いというのは、天気がすぐ悪くなる事を強めたものであって、7日というのは意味がないと思う。

(47)「川の石に苔つけば大水 23」当地方の洪水は、北上、迫、江合、鳴瀬の各河川によって生ずるが、これには3年の小週期がある。川石に苔というのは周期的にという事であろう。

(48)「南風で江合が出て(出水)東風で鳴瀬が出る 19」台風が来て当地方に南よりの風が吹いた時には、江合川上流が多雨となって江合川の洪水がおこり、東風の場合には、鳴瀬川の上流、奥羽山脈の中央部に多雨となって鳴瀬川が増水する。昭和13~25年、宮城県に日量50ミリ以上の大雨がふった場合の、県内雨量分布と風向の変化を見ると、全くこの俚諺の通りで、江合川の洪水予報上非常に有効であった。

(49)「雪荒れ七日 45」冬型の気圧配置がつづき、鴨子一小牛田間では、風雪が1週間位つづく事が冬に多い。これを雪荒れという。

(50)「強い風の前に風花がくる」風花とは辞書に、初冬の雨雪となっているが、この地方では、冬に季節風が吹き、裏日本に雪が降り、その時に小雪がこの地方までとんでくる時に、これを風花という。

(51)「はまゆき(又は島雪)がこない中は暖くならない 46」この地方は冬型の気圧配置で雪が降り、ふつう西部山地積雪量が多く海岸地方は少い。それが早春になると台湾付近に発生した低気圧が本邦の太平洋岸にそって進行して海上に雨、陸上に雪を降らせる。この場合は海岸地方に積雪が多くこれを「はまゆき」又は海岸の島々にふるから「しまゆき」という。はまゆきが降るのは2月上旬であり石巻付近で10cm以上の積雪を見る事がある。

(52)「彼岸荒れ」「暑さ寒さも彼岸まで」とはこの地方でも言っているが、丁度彼岸の時に、殊に春の彼岸に寒くなって風雪になる事がある。これを彼岸荒れという。

(53)「栗駒山に馬の形見えたら田植してよい 41」5月下旬、栗駒山の雪が消えると馬が横になった形が見える。もし気温が上昇せず低ければ雪の消え方は少くて馬の形は見えない。この形は栗駒を見る地方によって異り栗原の方では

(54)「たねまき坊主が見えたら田にもみまいてよい」という。又これと同じ意味に用いられる。

(55)「たねまき桜」が当地方の各町村にある。

(56)「日でりに不作なし 60」当地方の稲作で最も心配されるのは、冷害と水害とである。海拔8m内外の低湿地で災害の多いのは、宮城県災害史の示すところである。日でりの方が乾土効果も大になるであろう。

2. 俚語の知悉度

前の俚語の中、6)の各俚語の数字は、それを知っている人の割合の%を示している。6)の俚語についてだけ調査したのは、6)の俚語が気象上から見て根拠があり活用すれば有効な場合も多く、従ってこれを知っている事は農業上有効であると判断したからである。その結果を見

て次の事が分る。

(1) 非常によく知られているもの。70%以上知られているものは、風や雲の方向で天気判断を下すものであり、「西風で晴れ」などは92%も知っている。

(2) かなり知られているもの。50%以上のものであるがこれは13あった。

(3) 知られる事が少いもの。50%以下のもの、ある山にかかる雲や霧で天気を判断するものは30%台であるが、これはその山がその地方地方の人々にだけしか知られていない事から考えれば当然であろう。ただし「栗駒山が見えると雨が降る」が65%であるのは、この山は1000m以上の高い山であって仙北地方の人々にあまねく知られているからである。

(4) あまり知られていないもの。20%台、これは雷関係3つ、洪水関係2つ。雷の通路や発生地がきまっているために少いのであろうか。又洪水はこの地方を相当ひどくなやましたものであるのに何故知られる事が少いのであろうか。

(5) 地域的なもの。「はまゆき」について知っている人の分布を細かに調べて見ると、海岸から小牛田と古川の間あたりまでで、そこから西の方になると非常に少なくなる。

(6) 仙北の地域的なものと比較する為に、次の俚語の知悉度も参考までに調べた。「日がさ月がさ雨の兆 50」、「太陽が真赤になって沈むと日でり 66」、「遠くの物音が近く聞えると雨」や「遠くの山が近く見えると雨」が65%なのに「日がさ月がさ」が50%とは一寸低い気がするが、あるいは、ここでは50~60%は同じ位と考えてよいのかも知れない。

3. あとがき

以上、仙北の気象俚語を分類し、根拠あってそれを知っていると有効と思われるものについてその理由をのべ、又その知悉度について調査して見た。なおこれが具体的にどの様に利用されているか、又その適中率については次に発表したいと思う。なおこれは昭和41年1月、農業気象学会東北支部研究発表会に於て発表したものに加筆したものである。